

木工家具編

利府町ものづくり探訪

利府町は、宮城県のほぼ中央部に位置し、近年は大型商業施設などの進出によって仙塩地区の商業の核となっています。また、松島方面へつながる利府街道(県道8号線)はもとより、4カ所の高速道路ICを町内に持ち、仙台港まで約15分、仙台空港まで約20分と流通の便がよく、交通の要衝にもなっています。

その北部に位置するしらかし台工業団地には、立地条件の良さから1989年(平成元年)頃から工場や事業所の進出が進み、仙台市内から工場や事業所を移転してきた企業も数多くありました。最近では、利府しらかし台インターシティ工業団地が造成され、新たな企業が進出するなど、さらなる産業振興が期待されています。

今回は、しらかし台工業団地にある企業のうち、利府町ふるさと納税の返礼品として仙台筆笥を提供している樺産業株式会社と内外装や家具製造のほか独自開発商品にも力を入れている真栄工芸株式会社を訪れ、木工家具を中心とした「ものづくり」のお話を伺いました。

取材・文 葛西淳子

しらかし台工業団地

樺産業株式会社

真栄工芸株式会社

宮城県

仙台市

利府町

利府中IC

利府塩釜IC

利府駅前

利府街道

松島海岸IC

利府しらかし台IC

tsumiki

利府町ものづくり探訪

日本の伝統工芸

「仙台筆笥」を

暮らしの道具に

樺

産業は1978年の創業以来、多様化する生活環境の中、暮らしの道具としての仙台筆笥を守り続けてきました。1989年に仙台市内から利府町しらかし台工業団地に工場を移転して30年余り、仙台筆笥の製造を行っています。

仙台筆笥は、経済産業省が認めた日本の伝統工芸品の一つ。「木地づくり」「漆塗り」「金具」の三位一体の美しさが特徴です。現代の木地づくりの主流は、桐の芯材に樺の空目を貼り合わせる突板構造。塗りには、木地呂(きじろ)漆塗りや拭き漆塗り、朱色漆塗りに加えて、藤色や山吹色など多様な色の塗りが可能になっています。要となる金具は、仙台筆笥の独自の特徴を表す装飾です。江戸時代から続く牡丹や竜などの文様を彫金手打金具(ちょうきんてうちかなぐ)の技を持つ職人が、一つ一つ手作りで細工しています。

伝統の彫金技術を受け継ぐ後継者の育成も不可欠ですが、その一方で、現代の金属加工技術を駆使して、時代に合ったオリジナル鍛造金具(たんぞうかなぐ)の開発を試みました。何度も試作を繰り返し、仙台筆笥の金具として遜色ない商品ができあがるまで費やした年月は約20年。「仙台筆笥の新たな活路が見いだせたことで、伝統継承に希望が持てました」と大原社長は自信を込めて言います。

日本の伝統工芸の現状は、その産地の地域内だけですべてを維持することは難しくなっています。「各地域間の協力はもとよりオールジャパンで継承していくことが必要だ」と大原社長。仙台筆笥も全工程を県内だけで担うのではなく、全国各地の熟練した職人たちと協力し、最終的に利府町で完成させて商品化しています。まさにオールジャパンの技で製作された伝統工芸家具が、利府から世界へと発信されているのです。

大原社長は、若手職人の育成にも力を入れています。「起業して社長になれ。下請けにはなるな。自立できるまでは、樺産業から仕事を出し続ける」と、できるかざり

樺産業株式会社

代表取締役社長

大原良光さん

宮城県宮城郡利府町しらかし台6丁目14-4



お客様の思いを

カタチにする

真栄工芸株式会社

代表取締役

熊谷 一さん

宮城県宮城郡利府町しらかし台6丁目13-2

現在、内外装の仕事が約半分、残りは家具と看板製作となっています。それぞれ木工、アクリル加工、設計などの技術を持ったプロ職人の集団で工場内には、デジタルデータをもとにして立体物を作成できる3Dプリンター[写真①]、コンピューターと連動し高速かつ精密に切削加工するNCルーター[写真②]など最新機器を積極的に導入し、職人技との融合を図っています。

ここ数年は、自社の技術や実績を活かした自社企画商品の開発にも取り組んでいます。製作、設計、管理、営業など各セクションから集まった企画チームを立ち上げ、月1回ほどミーティングを行いながら商品化に向けて試作しています。

例えば、エポキシ樹脂加工技術と木工技術を組み合わせる製作した商品として、ケヤキの原木を生かした天板にエポキシ樹脂を流し込んだ「リバーテーブル」

写真③

中央部に樹脂を流し込み、扉本体は、利府町の梨の木を利用した「飾り棚」[写真④]など。地場の素材を取り入れた家具としてアピールしていきたいと考えています。

今年は、新型コロナ対策商品の開発試作にも力を入れました。3Dプリンターを活用した商品として試作したのが、マウスシールド。そのほか、飛沫防止パーティション、スクリーンなども注文に応じて製造しています。

これらの商品は、注文を受けてから手作りする一品物なので販売価格も高めに仕上がること、販路が限られていることが課題です。ネット販売や独自販路の開拓、利府町ふるさと納税の返礼品として採択してもらうなど知名度を高め事業展開していきたいと意欲的です。

写真①

3Dプリンター

写真②

NCルーター

写真③

リバーテーブル

写真④

飾り棚

利府町のんびりまち歩き

みる・やる、どっち？

スポーツ施設めぐり

案内人●地域おこし協力隊 李 訓承さん

地域おこし協力隊 李 訓承さん

やる兼です！

東京オリンピックサッカー競技会場の宮城スタジアムのほかにも、スポーツ施設が多い利府町。コロナ禍によってオリンピックは延期となりましたが、スポーツ日和のある日、利府町のスポーツ施設をめぐりました。

水泳

宮城県総合運動公園 総合プール

【建物】セントラルスポーツ宮城 G21プール

グランディ・21内には体育館のほか室内プールもあります。水球チームが練習していると聞きました。県内でもなかなか珍しいそうです。どんな競技なのか、ぜひ生で見てみたいです！

利府町青谷字館40-1

電話022-356-1122

沢乙北公園 テニスコート

自然の中でのテニスは最高！ラリーはもちろん、壁打ちコートもあるので一人で利用も可能です。隣接の野球場や散歩コースもあり、大自然を感じながら運動ができます。

利府町利府しらかし台五丁目18

受付窓口 022-356-0461(屋内温水プール)

テニス

サッカー

宮城県サッカー場

【建物】みやぎ生協めぐみ野サッカー場

サッカーの試合観戦の醍醐味は、サポーターとの一体感。観客席の近さは、ここならはです！

利府町森郷字内ノ目南119-1

022-356-6581

野球

中央公園野球場

【建物】楽天イーグルス利府球場

楽天ファームの本拠地です！スポーツサポーターのイタワシサポーターズも大会運営やグラウンド整備などで活躍しています。

利府町青山1丁目2-4

022-356-0461

室内

総合体育館

充実の設備、利府町民が利用する場合お得な料金。しかも用具の貸出しは無料！ふらっと行ってスポーツできる感じが素敵です。

利府町青山1丁目57-2

022-356-6019

高校

利府高校

スポーツに特化した学科がある利府高校に注目。スポーツ科学科があるってかっこいいですね！高校生の憧れや夢が実現するといえますね。

利府町青葉台1丁目1-1

スポーツは、観てもやっても、どちらも楽しいです！利府町の施設にまだ行ったことがないというあなた。これを機会にぜひ訪れてみてはいかがですか？自然を感じられるスポットが多く、四季折々の景色も楽しめます。

とふ

十の里びと

さと

13人目

-お名前

おくやま しげひろ

奥山茂博さん (52歳)

-なにをしているひとですか？

利府町に工場を構える食品会社
株式会社三和食品の専務取締役です。

おいしくて便利な食材を！
地元生産者とともに、地域の食を豊かに。

「おいしい恵を食卓へ」をモットーに、スーパーマーケットのお惣菜・外食産業や家庭向けの食材キットなど野菜の加工生産をしている三和食品仙台工場は、しらかし台工業団地で30年余り操業し、今年7月に沢乙の利府しらかし台インターシティ工業団地にその拠点を移転しました。新築の工場を訪ね、専務取締役の奥山茂博さんに利府町への工場設立の経緯や、製品づくりのエピソードなどのお話を伺いました。

地域の生産者とともに、食卓の「おいしい」を支える

仙台工場では、主にカット野菜の開発製造を行っています。特徴としては、単一商品のようなカット野菜ではなく、各種メニューに対応した材料セット形式の食材キットを手掛けていて、「店頭に並ぶ惣菜等のメニュー開発を取引先各社と共同で行っています」と奥山さんは言います。

地域の発展と社会貢献は、会社の理念。利府の地域から得た支えを自社独自の方法で還元したいと、「利府梨を使った焼き肉のたれ」(甘口)・(辛口)を作りました。この焼き肉のたれ開発に欠かせない利府梨は、地域の皆さんの協力により使用できるようになりました。

その後も製造開発の段階では何度も試作を繰り返し、味はもちろん材料の配合量や色味、安全基準などさまざまな検査を経てようやく製品となりました。「特に利府梨は梨そのものが美味しいため、すり潰すなどの加工を行うことで香りが薄れてしまわないよう工夫がむずかし

郷土の味からスタートし、今は日常の味の定番となる

三和食品は、1979年に三和食品加工の社名で山形県最上郡最上町に、しそ巻メーカーとして創業。次第に大根や白菜、きゅうりなどの地元野菜のカットや漬物、味付山菜などの加工も始めました。その後、仙台圏から刺身のつま用として大根や大葉の加工の注文が入るようになりました。はじめは毎日山形県から配送していましたが、追加注文などへの柔軟な対応するために塩釜市へ工場を設置。さらなる利便性を求め利府町に拠点を構えました。

当初主力商品だった刺身のつま用の野菜の加工は、価格競争の激化や大量生産には大規模設備導入が欠かせないことなどの問題から、主力商品をカット野菜にシフトしていきました。それと相まってスーパーマーケットでは、デリカ(お

- 会社の情報 株式会社三和食品

仙台工場 ● 利府町沢乙字白石沢32-67 ☎ 022-356-6388

本社工場 ● 山形県最上郡最上町大字富澤1330-4 ☎ 0233-45-2136

大蔵工場 ● 山形県最上郡大蔵村大字合海字高橋1391-11 ☎ 0233-32-1945

利府町で活躍する事業家を毎号紹介していきます

十符 (とふ) とは？ …… 昔、利府町の湿地帯には、良質な菅 (スグ) 草が生じ、「菅蔭 (スガコモ)」と呼ばれる敷物が作られていました。その菅蔭の編み目が 10 編あることから「十符の菅蔭」と呼ばれ、みちのくの「歌枕」としてもうたわれていました。これが、「十符の里」「十符の浦」と呼ばれるようになり、十 (と) が利 (と) に、符が府に変わったと言われています。

【 グッドデザイン賞受賞！ 】



利府町まち・ひと・しごと創造ステーションtsumikiは、このたび2020年度グッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。

グッドデザイン賞とは、1957年創設のグッドデザイン商品選定制度を継承する、日本を代表するデザインの評価とプロモーションの活動です。国内外の多くの企業や団体が参加する世界的なデザイン賞として、暮らしの質の向上を図るとともに、社会の課題やテーマの解決にデザインを活かすことを目的に、毎年実施されています。受賞のシンボルである「Gマーク」は優れたデザインの象徴として広く親しまれています

今回、tsumikiのグッドデザイン賞の受賞理由は、次のようなものでした。

グッドデザイン賞審査委員による評価コメント

まず、駅前に「まちづくりの主体となる新たな人材を育成するための拠点」を作ったという立地の適正さが秀逸である。また、人材育成という目的を達成させるため、ハード整備費とソフト運営費がほぼ同額にしたというバランス感覚が優れている。これによって、派手さが抑えられた建築の中に充実の運営体制がセットされることになっている。オープンから4年が経った今だからこそ、建築物の外観のみならず、活動実績も踏まえて評価されるべきプロジェクトである。

tsumikiは、11月19日にオープン4周年を迎えました。今後も地域に愛されるまちづくりの拠点施設としてその役割を果たしていきたいと思っています。

REPORT

2020年度グッドデザイン賞受賞記念&オープン4周年記念企画
「tsumikiを使ってみよう」
開催しました！

tsumikiをいつも利用してくださる方々への感謝と、tsumikiをまだ知らない方々へのご紹介のキモチを込め、11月19日～12月4日の期間カフェ・ワークスペースお試し無料利用と、合わせてウッドデッキ出店料の無料企画、利府梨カレー販売、キャンドルナイトなどのイベントを開催しました。

期間中は、学生の方、ボランティア活動をしている方、シニア世代の方など、利府町内外から連日多くの皆さんにご来館いただきました。ウッドデッキや館内には、いつもにも増して笑顔溢れる温かな時間が流れていました。

5年目のtsumikiもどうぞお楽しみに！

オープンイノベーションセミナー

オープンファクトリー五感市に学ぶ
企業連携が生み出す新しいビジネスの可能性

地方経済が行き詰まる中、「オープンイノベーション」という手法が注目されています。異業種・異分野の技術、アイデア、サービス、ノウハウなどを組み合わせることで、地域に新たなビジネスモデルが生み出されます。本セミナーは、地域のものづくり企業の連携により生まれた「オープンファクトリー五感市」実行委員会の佐々木優弥氏をゲストに、地域産業における新たなイノベーションの可能性について学びます。



2020年12月16日(水) 16:00～18:00(開場 15:30～)

ゲスト

佐々木優弥氏

翁知屋代表／オープンファクトリー五感市実行委員長

【対 象】

経営者、若手ものづくり人材、デザイナー、こあきない実践者など
企業連携による新たな事業展開に興味のある方

【参加費】

無料

【定 員】

10名(要事前申込)

※オンラインでもご参加いただけます。

申込み完了後、配信用 URL をお知らせいたします。

【会 場】

利府町まち・ひと・しごと創造ステーション tsumiki

【企画】

一般社団法人 Granny Rideto 【主催】利府町

セミナー内容



各種イベント・講座のお申し込み

【TEL】 022-766-9231 【E-mail】 info@rifu-tsumiki.jp
お名前(ふりがな)・住所・電話番号・メールアドレスをお知らせください。

tsumiki
利府町まち・ひと・しごと創造ステーション

利用時間
9:30-17:30
(水・金曜日は21:00まで開館)

休館日
火曜日・年末年始

〒981-0104
宮城県宮城郡利府町中央1-5-2
TEL 022-766-9231
FAX 022-766-9232
Email info@rifu-tsumiki.jp

設置者 利府町(秘書政策室 政策班)

管理運営(業務委託者) 一般社団法人Granny Rideto

利府町では、地方創生に向けて良好な住環境に「ワクワク感」をプラスした魅力的なまちづくりを進めています。秘書政策室政策班は、地方創生の総括部門として「利府ならではのシティセールス政策や、移住・定住政策などに取り組んでいます。

Granny Rideto(エスペラント語)は、日本語で「おばあちゃんの笑顔」と訳します。これから高齢化社会を迎える中で、おばあさんになっても笑顔で暮らせる社会をつくりたいという意味が込められています。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいをやく役割を担うという意味が込められています。

公式ウェブサイト

Twitter

Facebook

Instagram

rifu-tsumiki.jp

@rifu_tsumiki

<tsumiki>で検索

@rifu_tsumiki